

テーマ：4月商業販売統計

発表日：2005年5月27日（金）

～ 小売業販売額は、97年3月以来の高い伸び～

(No. J - 26)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL：03-5221-4525

(要旨)

- 4月の商業販売額は前年比+3.2%と11ヵ月連続の増加となった。内訳をみると、卸売業が同+3.0%と伸びが拡大したことに加え、小売業が同+3.9%と消費税引き上げ前の駆け込み需要があった97年3月以来の高い伸びとなった。
- 小売業販売額の内訳をみると、燃料小売業が前年比+19.1%と伸び率が拡大したことに加えて、自動車小売業も前年比+11.3%と大幅な増加となったことが全体の増加に大きく寄与した。燃料小売業は石油製品価格の上昇による名目ベースでの押上げの影響が大きいが、自動車販売や季節物衣料品は堅調に推移し、4月の小売業販売は好調だったと言えよう。
- 需要側の統計である4月家計調査（勤労者世帯、31日発表）は、2ヶ月ぶりの減少が見込まれる。もともと、ある程度のマイナスとなる可能性が高いものの、個人消費が弱含んでいることを示すものではないと判断される。家計調査の減少を見込むのは、前年同月がサンプル要因等もあって水準が高かったことからの反動が主因である。雇用・所得環境は緩やかながらも改善基調にあり、消費マインドも高い水準にあることを考えれば、個人消費が基調として減少していく可能性は低いと考えられよう。

(単位：%)

	商業販売額	卸売業						小売業			コンビニ販売額		
		卸売業		小売業		大型小売店			コンビニ販売額				
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比	既存店前期比	前年比	既存店前年比	
03	4-6月期	▲0.8	0.0	▲0.3	0.2	▲2.6	▲1.1	▲1.1	▲3.5	▲3.3	▲3.6	1.9	▲2.2
	7-9月期	▲1.2	▲1.1	▲0.9	▲1.6	▲2.2	▲0.9	▲2.0	▲4.3	▲3.0	▲5.2	▲0.1	▲3.9
	10-12月期	0.0	1.7	0.4	2.6	▲1.2	0.3	▲1.9	▲3.2	▲2.3	▲4.0	2.2	▲1.5
04	1-3月期	0.9	▲0.8	1.1	▲1.2	0.2	0.7	▲0.5	▲2.2	▲1.1	▲3.0	2.2	▲2.1
	4-6月期	1.3	1.7	2.4	2.5	▲1.9	▲1.8	▲1.9	▲3.9	▲2.9	▲4.6	2.1	▲1.4
	7-9月期	3.4	0.9	4.5	1.3	▲0.3	0.4	▲1.5	▲3.4	▲3.0	▲3.7	4.3	1.1
	10-12月期	3.1	1.0	4.2	1.0	▲0.4	0.3	▲2.0	▲4.5	▲3.8	▲5.1	2.1	▲1.1
05	1-3月期	2.1	0.0	2.7	▲0.5	0.0	2.3	▲1.5	▲4.1	▲3.2	▲4.8	0.5	▲2.1
04	4月	2.5	4.4	3.7	5.8	▲1.0	▲0.5	▲1.3	▲3.3	▲1.0	▲4.9	4.2	0.5
	5月	▲2.0	▲2.2	▲1.9	▲2.6	▲2.2	▲0.9	▲1.4	▲3.5	▲2.4	▲4.2	2.7	▲0.9
	6月	3.3	2.1	5.1	2.4	▲2.5	0.1	▲2.9	▲5.0	▲5.4	▲4.6	▲0.5	▲3.8
	7月	4.8	1.5	6.2	2.6	1.0	0.1	0.6	▲1.5	▲0.8	▲2.1	9.9	6.5
	8月	3.6	▲1.2	5.3	▲2.0	▲1.6	0.4	▲2.8	▲5.4	▲4.7	▲5.8	2.3	▲1.0
	9月	1.8	▲1.5	2.4	▲2.2	▲0.3	0.8	▲0.8	▲3.5	▲4.2	▲3.0	0.6	▲2.1
	10月	0.9	3.0	1.4	3.4	▲0.9	0.1	▲1.6	▲4.2	▲3.5	▲4.7	2.1	▲1.1
	11月	5.8	▲0.6	7.4	▲0.1	0.6	▲0.8	▲2.7	▲5.3	▲5.4	▲5.2	2.1	▲1.3
	12月	2.7	▲0.4	4.0	▲0.5	▲1.0	0.2	▲1.7	▲4.2	▲2.8	▲5.3	2.2	▲0.9
05	1月	3.8	3.8	4.3	3.1	2.4	4.6	1.4	▲1.2	0.7	▲2.6	1.3	▲1.9
	2月	2.2	▲2.3	3.8	▲1.7	▲2.7	▲2.6	▲4.2	▲6.7	▲7.2	▲6.3	▲1.9	▲2.8
	3月	0.7	▲4.8	0.9	▲6.1	0.3	▲1.2	▲2.4	▲4.5	▲3.2	▲5.5	1.9	▲1.5
	4月	3.2	7.0	3.0	8.2	3.9	2.9	▲0.4	▲2.1	▲0.5	▲3.3	2.3	▲1.2

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

● 4月の商業販売額は前年比+3.2%（卸売業+3.0%、小売業+3.9%）

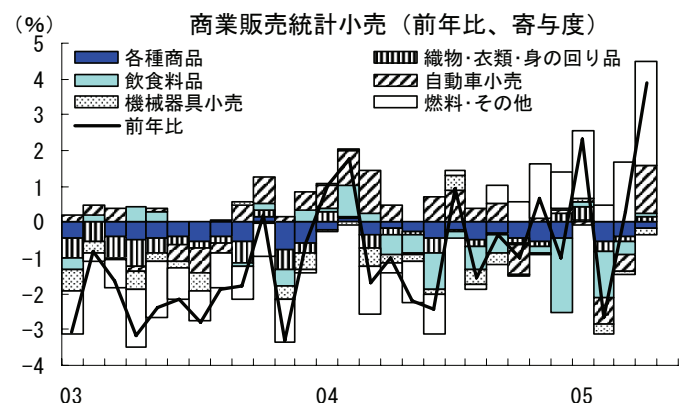
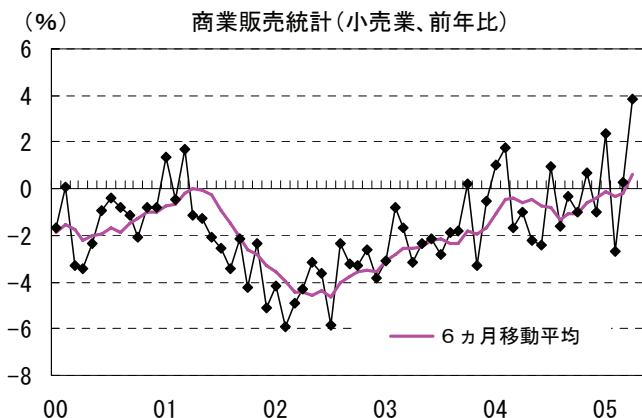
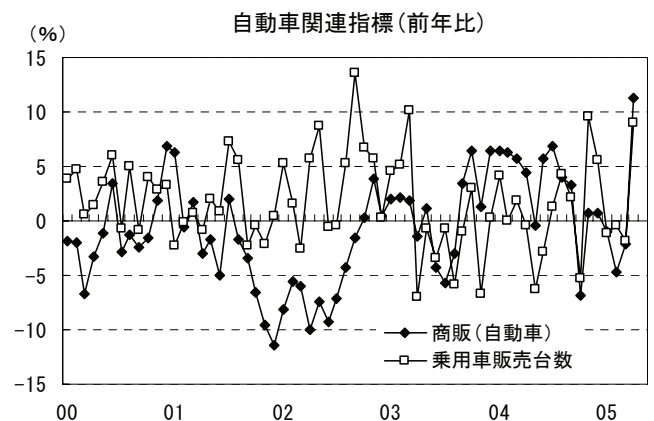
4月の商業販売額は前年比+3.2%と11ヵ月連続の増加となった。内訳をみると、卸売業が同+3.0%と伸びが拡大したことに加え、小売業が同+3.9%と消費税引き上げ前の駆け込み需要があった97年3月以来の高い伸びとなった。小売業は市場の事前コンセンサス及びレンジ（前年比+1.4%、▲1.6%～3.0%）

を上振れ、ややサプライズな結果となった。また、大型小売店販売額は前年比▲2.1%（既存店）とマイナス幅は前月より縮小し、業態別にみても百貨店販売額が同▲0.5%、スーパーは同▲3.3%とマイナスながらも減少幅は縮小した。

●自動車や衣料など、業種別にみても4月は好調

小売業販売額の内訳をみると、燃料小売業が前年比+19.1%と伸び率が拡大したことに加えて、自動車小売業も前年比+11.3%と大幅な増加となったことが全体の増加に大きく寄与している。燃料小売販売額の増加については、4月に石油製品価格が大きく上昇したことが主因である。同日に発表された消費者物価をみても、4月の石油製品価格は前年比+12.1%（3月同+9.3%）、前月比+4.1%と上昇ペースが拡大しており、名目ベースでの押し上げに寄与した。また、自動車小売業も大幅な増加となったが、これは新車投入効果から小型車を中心に大きく増加している業界統計の4月自動車販売台数と整合的である。もともと、商業販売統計の場合、法人需要も含まれる。個人消費を考える場合は貨物車やバスを除いた乗用車ベースで考える必要がある。排ガス規制に伴う買い替え需要の反動によって落ち込んでいた貨物車がプラスに転じたことも自動車小売販売額を押し上げたと考えられるため、やや割り引く必要がある。織物・衣類・身の回り品小売業に関しては、前年比+2.0%と3ヵ月ぶりの増加となった。月前半に気温が高かったことで春物衣料や、初夏商材などに動きがみられたことが大きい。

石油製品価格の上昇が小売業販売額を押し上げている点などは割り引いて考える必要があるが、総じて4月の小売業販売は好調であったと言えよう。

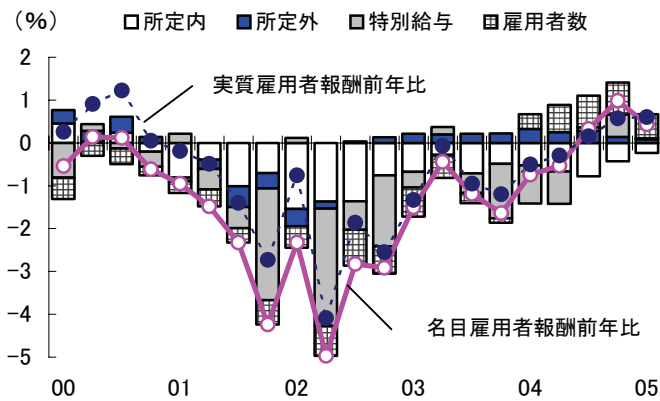


●需要側統計の家計調査は前年の反動もあって2ヶ月ぶりに減少の公算

一方、需要側の統計である4月家計調査（勤労者世帯、31日発表）は、2ヶ月ぶりの減少が見込まれる。もともと、ある程度のマイナスとなる可能性が高いものの、個人消費が弱含んでいることを示すものではないと判断される。家計調査の減少を見込むのは、前年同月にオリンピック需要などからデジタル家電の売れ行きが良かったこと、サンプル要因もあって自動車等関係費が大幅に増加していたことなどからの反動が主因である。商業販売統計を含む4月の消費関連統計を考えると、土曜日が前年に比べて1日多かつ

たことや自動車、季節物衣料に動きがみられたこと、花粉症対策商品の売れ行きが良かったこともあってそれほど悪くはない。雇用・所得環境は緩やかながらも改善基調にあり、消費マインドも高い水準にあることを考えれば、個人消費が基調として減少していく可能性は低いと考えられよう。4-6月期の個人消費を展望すると、夏のボーナスは前年を上回る公算が大きく、高い伸びとなった1-3月期から伸び率こそ鈍化するものの底堅く推移すると考えられよう。

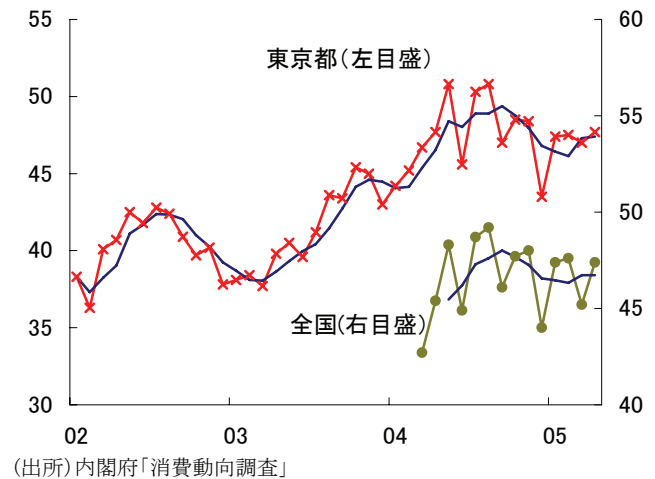
雇用者報酬の推移



(出所)厚生労働省「毎月勤労統計」

(注)1.ボーナス支払時期にあわせ四半期を分割(1Q:2~4月
2Q:5~7月、3Q:8~10月、4Q:11~1月)
2.05年1Qは2~3月の数値で前年比を計算

消費マインドの推移



(出所)内閣府「消費動向調査」